

私たちの町の文化財

池のほとりの不思議

■第4話 味生池に棲む龍

今年の第1話で味生池に棲む大蛇の民話を紹介しました。あれっ、大蛇？味生池の伝説は龍じゃなかったけ？そう思われた方もいらっしゃるかもしれませんが。実は大蛇と龍は密接な関係があるのです。

古来より蛇（特に白蛇）は日本人にとって信仰の対象になっていました。それが、仏教などと共に中国の思想が流入した奈良・平安時代に、日本にも龍が棲むようになったのです（変な表現ですが）。ところが、誰も龍など見たことがありません。そこで、古来より信仰されていた水辺に棲む蛇と龍が同一視されました。これは味生池に限らず、日本全国に見られます。たとえば菊池にある竜門ダムは斑蛇口湖にあります。斑蛇＝まだら蛇の意味ですが、地元では白蛇が信仰されています。これが龍門神社の龍の伝説と絡まりあっています。

中国では皇帝のシンボルマークである龍。日本では大蛇と同一視され、水神様として河や滝つぼ・井戸の中などに棲む身近な存在と姿を変えました。

味生池に棲んでいた龍。もしかすると元は小さな蛇だったのかもしれませんが。この龍がどんなことをしでかすのかは、次回以降のお楽しみ。

熊本市文化振興課 師富国博氏

たしかに姿か
たちは似てい
るね。それで
も蛇はちよっ
と苦手だモン

